

「商業高校生オリンピック in ふくおか」の成果と課題

福岡県高等学校商業教育振興部会長 岩本 康明
 福岡県立小倉商業高等学校長

1. 大会の経緯

福岡県高等学校商業教育振興部会創立60周年記念事業の一環として平成21年に第1回「商業高校生オリンピック in ふくおか」を行った。平成27年度で7回目となる。

「課題研究」生徒実践発表会、簿記競技会新人戦、珠算・電卓競技大会新人戦、英語スピーチコンテスト、ワープロ新人競技県大会、情報処理競技会の各競技会の統一大会として、例年12月23日に実施している。福岡市内の大学を会場とし、第7回大会は九州産業大学で県内の商業教育を学ぶ20校、382名の生徒が参加した。

第1回大会を実施するにあたって最も難しかったのが、従来実施していた各大会の開催時期を合わせることだった。ワープロ競技新人戦が11月、簿記競技会新人戦と課題研究発表会が12月、珠算競技新人戦が2月と開催時期が3か月もひらいていた。また、情報処理競技会と英語スピーチコンテストについては新人戦に類する大会がなかった。

このような中、本部の瀧口事務局長（現 若松商業高等学校長）が、各専門分科会事務局や幹事会と

綿密な調整を行いながら、本大会の趣旨と目的に沿った競技の運営を検討してもらい、情報処理競技会と英語スピーチコンテストにも新たな大会を創設することで「商業高校生オリンピック in ふくおか」の原形ができ、今日に至っている。

後援は福岡県教育委員会、福岡市教育委員会の他に産業教育振興会、高等学校長協会、副校長・教頭協会、中学校長会に依頼した。

2. 大会の概要

(1)大会のねらい

各大会を個別に実施する場合、参加者は数十名であるが、統一することで400名近くになる。

本大会の目的は、各競技会を一堂に会して行うことにより、生徒が互いに切磋琢磨し、ビジネスに関する興味と関心をさらに喚起するとともに一層の競技力の向上を図る。また、ビジネス教育と商業教育振興部会の活動をアピールすることである。

(2)競技形式

各競技会は、全国大会、九州大会の競技規定に基づいて団体、個人で順位を競っているが、「商業高

第7回「商業高校生オリンピック in ふくおか」日程

運営	第2分科会 (簿記会計)	第6分科会 (情報処理)	第3分科会 (珠算・電卓)	第5分科会 (ワープロ)	第1分科会 (商業経済・ 課題研究)	第4分科会 (英語実務)
9:00	総合開会式					
10:00	第11回 簿記競技会 新人戦	第7回 情報処理競技会 新人戦	第38回 珠算・電卓 競技大会 新人戦	第60回 ワープロ新人 競技県大会 (速度、技能)	リハーサル	第7回 英語 スピーチ コンテスト
12:00 13:00					第24回 「課題研究」 生徒実践 発表会	
15:00	審査・集計					
15:30	総合閉会式					
	成績発表・表彰・講評					



「商業高校生オリンピック in ふくおか」ではさらに各大会の順位をポイント化し学校対抗方式で行っている。

すべての競技における成績と参加を以下のように点数化し、学校の総合表彰を行っている。

ア 競技点

優勝	2位	3位	4位	5位	6位
15点	10点	8点	4点	3点	2点

イ 参加点

団体	個人
10点	2点

(2)運営組織

福岡県高等学校商業教育振興部会が主催し、本部事務局が大会全体を統括し、各分科会との連絡調整を行っている。各競技は専門の分科会の幹事と事務局が企画・運営している（前ページの日程表を参照）。



3. 成果

(1)参加者の意識の変化

第1回大会を実施した時、最も印象深かったのが総合開会式だった。県下の商業を学ぶ高校生が学校の名譽を背負って一堂に会した光景は正に圧巻である。参加生徒の間から「こんなにいるんだ!」と感激の声が上がり、個別に競技会を行っていた時より生徒の意欲が高くなった。

(2)アピール効果

一会場で六つの競技が見られるというメリットもあり、第1回大会から毎年、新聞への掲載、テレビ放映等の取材がある。

4. 今後の課題

(1)参加者、見学者の増員

商業教育をさらに広くアピールするために行っているが、ターゲットとなる中学生とその保護者の参加が増えていない。企業への参加呼びかけも含め大会広報の方法を工夫しなければならない。

(2)オープンな競技の運営

競技選手や発表者への配慮から競技が始まると会場への出入りが制限されることがある。参加者や来場者に臨場感のある競技を見てもらい、商業教育を理解してもらうためには、見学席を作るなどの手立てが必要である。運営方法も改善したい。